



早石修記念海外留学助成による留学体験記

2022年度採択者 東 小百合

本助成金のご支援のおかげで2021年6月から2023年3月までドイツ・ミュンスター大学のWegner研究室 (PI: Prof. Seraphine V. Wegner) で非常に充実した研究生活を送ることができました。今回の留学において多大なご支援を賜りました早石修記念海外留学助成プログラムの関係者の皆様に深く感謝いたします。また、岐阜大学 池田将教授をはじめ私の留学という挑戦に背中を押してくださった先生方、私を快く受け入れて様々な研究プロジェクトに参加させてくださったWegner先生に、この場をお借りしてお礼申し上げます。現在は、岐阜大学高等研究院で特任助教として研究および教育活動に精進しております。

私が留学したWegner研は、実に国際色が豊かでした。具体的には、トルコ出身のWegner先生に、ラボメンバーの出身国籍はアメリカ、イタリア、イラン、インド、エクアドル、ガボン、中国、ドイツ、フィンランド、メキシコと多様です。これだけグローバルな環境だと、外食を彼らと共にする時も各自が美味しいと認めた海外料理店を皆で訪れ、自国文化について語りながら飲食することも盛んであり、このような日々も非常に貴重だったと感じます。

さて、Wegner研での私の研究プロジェクトについては、留学前にメールやオンラインでWegner先生と議論することで留学を始めるとすぐに実験を始めることができました。Wegner研では、主に細胞生物学、生化学からなる二

つのサブグループに分かれ人工細胞または新たな機能性材料の創製に取り組んでいます。どの研究テーマにも共通することは、特定波長の光照射により二量体化や構造変換するタンパク質：光センサータンパク質を用いるという点です。私は、生体分子や合成分子をボトムアップ式に組み上げて構築する人工細胞を機能化する研究プロジェクトに携わりました。日本で実験をしていた頃は、実験中はあまり仲間と話さずに実験に集中していましたが、ここでは違い、手は動かしつつもラボメンバーと会話を楽しみました。時には、光センサータンパク質に必要な暗所下で音楽に合わせてカラフルなLED光を照らすことでパーティー仕様にし、踊りだすラボメンバーもいました。そんな彼らと冗談を言い合いながら実験をする、そのような日々も今はとても懐かしく良い思い出です。それでいて、いざ研究や細かな実験の話になると熱く真剣な議論をします。こうした彼らのメリハリのある研究姿勢には感嘆すると同時に勉強になりました。そして何より、ボスであるWegner先生の実に幅広い研究領域への洞察力やプロジェクト考案力には進捗報告会の度に感銘を受けました。

ここでの研究経験を糧に、人の役に立てる教育者・研究者を目指して今後も精進致します。

(現 岐阜大学高等研究院 特任助教)

※早石修記念海外留学助成について

日本生化学会では2017年度より「早石修記念海外留学助成」の募集を開始いたしました。この助成制度は、日本の生化学会に多大な貢献をされた故早石修名誉会員 (2015年12月17日ご逝去) を記念して、小野薬品工業株式会社様のご寄付によって設立されたものです。助成額は1件500万円、毎年8名まで選出します。応募資格その他詳細は学会ウェブサイト (<http://www.jbsoc.or.jp/support/hayaishi>) 掲載の募集要項をご覧ください。